

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価書

令和2年2月12日(水)

甲斐市立竜王小学校 学校関係者評価委員会作成

第1回 学校関係者評価委員会

実施日：令和2年2月7日(金)午後3時30分から4時30分

会場：甲斐市立竜王小学校 会議室

参加者：学校評議委員：森澤ひとみ・篠原美代子・碓井和幸

小尾平明・島田明人

P T A 本会役員：萩原健一・石合愛・末木摩耶

学校側：校長 小尾一彦・教頭 立川武

主幹 小田切真喜・生指春日 秀一

I 学校側から提案された内容

〈教職員自己評価書について〉

- 1 達成状況について
- 2 改善策について
- 3 まとめ

II 協議された主な内容

1 全体の概要について

(1) 教職員自己評価について

- ほとんどの設問で肯定的評価が90%以上であり、昨年度に引き続き、教職員自己評価が良好であること。

(2) 小学生アンケートについて

- 「学校は楽しいですか」の肯定意見が約94%となり、多くの児童が学校生活に満足している状況であること。

(3) 保護者アンケートについて

- 「お子さんにとって学校は楽しいところだと思う」の肯定意見が約95%以上であり、好意的な評価であること。

2 学校教育目標・学校経営について

- 研修等を通して、一人一人の教職員がPDCAを活用し、効果的・効率的な教育活動を目指した改善を図っていくこと。
- 適材適所、組織的な対応、ICTの有効活用などを通して、引き続き教職員の多忙化解消への取り組みを進めていくこと。

3 学校運営について

- 教職員の成果を十分にフィードバックしながら，一人一人の教職員が自信を持って児童の教育活動にあたることができるようにしていくこと。
- 「危機管理マニュアル」の見直し・充実を図るとともに，教職員に対する周知や訓練の実施を的確に行うこと。
- 校内初任者研修，若手育成グロアアップ事業，校内研究等を組織的・計画的に行うことで，一人一人の教職員の資質・能力の向上を図ること。

4 学習指導について

- 各教科の学習評価を再確認し，評価規準や評価方法を明確にしながら毎日の授業に取り組むようにすること。
- 「家庭学習の手引き」「学びの甲斐善八か条」などを活用し，保護者と連携をとりながら家庭学習への指導の充実を図ること。

5 生徒指導について

- 校内研究などを通じて，「生き方教育（キャリア教育等）」への教職員の意識を高め，指導の充実を図ること。
- 児童とのコミュニケーションをより深め，保護者・地域との連携をとる中で児童の問題行動の早期発見・早期対応に努めるようにしていくこと。

6 地域との連携について

- 様々な学校行事や日頃から保護者と密に連絡を取り合うこと，学校協力者会議等の機会を活用し，地域からの情報収集をより行っていくこと。
- 各教科や総合的な学習の時間，特別活動等の指導において，家庭や地域と協働し，地域の人材や施設を十分に活用できるようにしていくこと。

7 学校の特色に関して

- 来年度以降も「チームドラゴン」として，特色のある，地域のリーディングスクールとしての役割を果たしていけるよう，全教職員一丸となって取り組んでいくこと。

〈学校関係者評価書〉

1 全体評価

- 教職員自己評価や保護者アンケート，小学生アンケートの結果が全体的に良い結果であり，学校がしっかりとその責任を果たしている様子が分かる。

2 観点ごとの評価結果

I 学校教育目標・学校経営について

- 教職員が疲れているように感じる。ビルド・アンド・ビルドの状況の中，大変だが児童の基礎・基本の学力の定着を図ってほしい。
- 若い教職員の資質・能力の育成には，よいミドルリーダーの存在は欠かせない。まとまりのある教職員集団の形成のため，中堅教職員が組織をよくまとめてくれている現状である。一方，職務に専念するあまり，退勤時刻が遅くなってしまうなど，働き方改革の観点で見ると，課題も生じている。

II 学校運営について

- よい学校運営には教職員どうしのチームワークが欠かせない。OJT を生かしながら，教職員一人一人の資質・能力の向上を目指していきたい。また，教職員どうしのコミュニケーションの高さが素晴らしい。このことが，学校運営がうまく行われている大きな要因の一つであろう。
- 社会で様々な事件・事故が起こっている中，教職員の「危機管理マニュアル」についての周知の徹底と意識の向上を図っていきたい。

III 学習指導について

- 普段の家庭での児童の様子から，児童の主体的な学習への取組の様子がよく分かる。家庭学習についても同様で，意欲的に家庭学習に取り組んでいる。一方で家庭学習の指導に対する自己評価が比較的低いことが気になる。様々な取り組みを進めていく中で，教職員は自信を持って取り組めるようになってほしい。

IV 生徒指導について

- アンケートの結果が素晴らしい数値となっている。特に，教職員が児童としっかりコミュニケーションをとっている様子がよく分かる結果となっている。このことが，生活指導における評価の高い数値につながっていると思われる。

V 地域との連携について

- PTA 活動への参加について、本会役員や専門部の意欲的な取組と協力意識が全体に広がっている様子が分かる。保護者の積極的な姿は、児童の良いお手本となっていると考えられる。引き続き、積極的な PTA 活動への取組が望まれる。
- 児童の生活環境が急変している。学校が最後の砦となっている現状がある。スマホや SNS と上手につきあい、児童が健やかに育っていけるように、学校と家庭・地域が連携をとっていきたい。
- 近年台風などの災害が多く発生しているが、避難所の設置など、地区・行政・学校がしっかりと連携をとり、地域住民の安全を確保していく必要性がある。

VI 学校の特色について

- あいさつの取組への評価については、学校での充実した指導が継続して行われている様子が分かる。一方、保護者のアンケートからは、家庭や地域でのあいさつに課題があることが表れている。社会の状況から見知らぬ人にあいさつを行うことを勧めることはできないが、家族や顔見知りの地域の方々には積極的にあいさつするよう働きかけたい。

3 今後の課題として確認されたこと

- 学校運営や学級経営の PDCA サイクルの構築
- 福利厚生や健康管理についての管理の充実
- 「危機管理マニュアル」への十分な理解
- 授業における評価規準と評価方法の明確化
- 宿題・家庭学習への指導の充実
- 国際理解を高める指導
- 生き方教育（キャリア教育など）の充実
- 問題行動の早期発見・早期対応
- 保護者・地域からの情報収集の充実
- 地域の教育力を生かす指導

※特記事項

- 特になし